

井上章一 (国際日本文化研究センター教授) 編

学問を

しばるもの

▼A5判・約三六〇頁

本体：定価 二、五〇〇円 (税別)

ISBN 978-4-7842-1898-1

【二〇一七年十月刊行予定】

いっぽうに、研究者の書くものは、真理をめざしている、と考えられている。事実への探求欲だけに、それらはさまざまに書かれている、そうみなすのがふつうである。

しかし、多くの論文が、じつさいには時代の型に論述ぶりを枠どられてきた。たとえば、一九五〇年代の論文は、一九五〇年代のスタイルに、そめあげられている。時代の鑄型からときにはなされた、自由な論文はあまりない。

また、たいいていの論文は、大なり小なり学統の感化を受けている。あけすけに書けば、出身ゼミの色をおびているものである。たとえば、そこからの脱出をこころざしていたとしても。
(編者による「まえがき」より)

学問、とくに人文系の学問は何にしばられてきたのか、はつきり明らかにされるべきである。

編者の呼びかけに応じた研究者たちが、これまでいわば放置されてきた、人文系の被拘束性を問いた、たす!

◆ 予定目次

第一部 ◆ 大日本帝国の時代から

- 論文 はたして言語学者はふがいないのか 長田俊樹
- 論文 日本語系統論の一断面 瀧井一博
- 論文 帝国大学の創設と日本型社会科学の形成 藤原貞朗
- 論文 天心の「子ども」たち 高木博志
- 論文 「日本美術史」の形成と古都奈良・京都 小路田泰直
- 論文 「日本美術史」の超克 永岡 崇
- 論文 邪馬台国論争の超克 斎藤成也
- 論文 白鳥・津田史学からの脱却 永岡 崇
- 論文 特高警察と民衆宗教の物語 斎藤成也
- 論文 日本人起源論研究をしばつてきたものごと

第二部 ◆ 戦後の光景

- 論文 エポックメイキングな歴史書 玉木俊明
- 論文 大塚久雄・越智武臣・川北稔の歴史学 荒木 浩
- 論文 「国文学史」の振幅と二つの戦後 安田敏朗
- 論文 「西洋・世界文学」・風巻景次郎をめぐる 関 幸彦
- 論文 民科とスターリン言語学 若井敏明
- 論文 中世学史の点と線―石母田史学の挑戦 今谷 明
- 論文 戦後日本古代史学への雑考
- 論文 学問への内外の規制―日本史学の場合

幕間

- コラム 共同研究の支え―樋口謹一の仕事 鶴見太郎
- コラム 「教育勅語」と「十戒」雑感 上村敏文
- コラム 角屋と桂離宮 井上章一
- コラム 真理と自由、そして学会 井上章一

第三部 ◆ 戦後は明治をどうとらえたか

- 論文 学問を、国という枠からとくはなつ 井上章一
- 対談 ーアメリカのフランス革命、ソビエトの明治 維新、そして桑原武夫がたどった途 竹村民郎×井上章一
- 論文 明治絶対王政説とは何だったのか 井上章一
- 論文 二〇世紀初頭、天皇主義サンディカリズムの相剋 竹村民郎
- 論文 ー北一輝、大川周明、安岡正篤、永田鉄山の関係 竹村民郎
- 論文 ー北一輝、大川周明、安岡正篤、永田鉄山の関係 竹村民郎

第四部 ◆ 再録

- 論考 『つくられた桂離宮神話』より 井上章一
- 論考 歴史はどこまで学統・学閥に左右されるのか 井上章一

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-533-6860 fax. 075-531-0009
https://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	学問をしばるもの	本体2,500円(税別)	ISBN978-4-7842-1898-1	
お名前			tel	本書HPのQRコード	
ご住所	〒		e-mail		
送本方法	代引 (書籍代+消費税+送料600円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担) ◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎				



幸田露伴の世界

井波律子・井上章一編

明治、大正、昭和を通じ、小説家・劇作家・随筆家等々として多彩な才能を発揮した幸田露伴。さまざまな分野の研究者が集まり、小説や評論など文学面はもちろんのこと、都市・遊技・旅行・自然観察・人生論等々の著作を通じて多様な角度から露伴にアプローチした、国際日本文化研究センターの共同研究成果13篇。

▶A5判・318頁／本体5,000円(税別) ISBN978-4-7842-1444-0

逆欠如の日本生活文化

園田英弘編著

日本にあるものは世界にあるか

西洋にあるものが日本にはない「欠如」という観点からではなく、出発点を日本においた「日本にあるものは世界にあるか」という新たな方法論に基づく文化比較。日本に固有と思われている現象について国際比較することにより、鮮やかに見えてくる特性。国際日本文化研究センター共同研究14篇。

▶A5判・404頁／本体3,800円(税別) ISBN4-7842-1248-5

海賊史観からみた世界史の再構築

稲賀繁美編

交易と情報流通の現在を問い直す

文化交渉・交易全般における「海賊行為」を総合的に再検討することを目的とし、狭義の美術史、文化史、交易史のみならず、経済史、国際法、情報流通論などの分野の知見をも学際的に取り入れ、国際的視野から葛藤の現場を解明する。36名による国際日本文化研究センター共同研究の成果。

▶A5判・852頁／本体14,000円(税別) ISBN978-4-7842-1881-3

角倉一族とその時代

森洋久編

了・素庵による朱印船貿易、高瀬川・保津川・富士川の開削など、現代の角倉イメージにとらわれず、文化・技術の総体の中で近世の吉田・角倉一族の業績を俯瞰的に検討。多彩な分野の研究者のみならず、近世の技術の継承者たる職人・技術者も含む26名の論考を収録する。

▶A5判・628頁／本体8,800円(税別) ISBN978-4-7842-1797-7

幕末外交儀礼の研究

佐野真由子著

欧米外交官たちの将軍拝謁

日本と欧米の国との正式な外交関係は、安政4(1857)年、アメリカ総領事タウンSEND・ハリスの登城・将軍家定拝謁をもって幕を開けた。徳川幕府終焉まで計17例を数えた欧米外交官による将軍拝謁をとりあげ、政治交渉過程とは異なる次元で展開した外交儀礼の形成過程を論じる。

▶A6判・432頁／本体5,000円(税別) ISBN978-4-7842-1850-9

記念植樹と日本近代

岡本貴久子著

林学者本多静六の思想と事績

近代日本で行われた「記念植樹」を、個別の歴史事象、林学の創成と展開など時代背景と照合しながら、その活動の主導的立場にあり、方法論を構築した林学者・本多静六に注目し、彼の生家の富士山信仰・不二道の思想的影響も視野に入れながら、近代国家形成のあゆみに記念植樹を位置づける。

▶A5判・568頁／本体9,000円(税別) ISBN978-4-7842-1843-1

京都 近代の記憶 場所・人・建築

中川理著

東京遷都により没落の危機に見舞われ、都市改造や近代建築の導入に積極的に取り組む一方で、まさに生き残りを懸けて「千年のみやこ」を演じてきた街、京都。いまある京都の魅力はいつ、どのように作られたのか? 「歴史都市」の近代化の過程で生まれたさまざまなエピソードを、場所・人・建築をキーワードとして写真とともに綴る。

▶A5判・184頁／本体2,200円(税別) ISBN978-4-7842-1812-7

世界遺産と天皇陵古墳を問う

今尾文昭・高木博志編

世界文化遺産登録に向けた動きのなかで浮かびあがる天皇陵をめぐる諸問題——考古学の成果との齟齬、天皇陵指定の経緯、陵墓公開運動、社会への広がり(ウェブ・教科書・報道)などを多角的に取りあげ、これからの天皇陵のあり方を考える。

▶A6判・304頁／本体2,300円(税別) ISBN978-4-7842-1872-1

万国博覧会と人間の歴史

佐野真由子編

万国博覧会から、人間の歴史が見える! 本書は従来の研究の枠組みを超え、多様な領域の研究者のほか、万博をつくり、支える立場の政府関係者、業界関係者が集い、さらにアジア各国の研究者を迎えて、ともに議論を重ねた共同研究の成果。

▶A5判・758頁／本体9,200円(税別) ISBN978-4-7842-1819-6

異邦から／へのまなざし

白幡洋三郎・劉建輝編著

見られる日本・見る日本

国際日本文化研究センター所蔵の明治～戦前期古写真と外地絵葉書など(外像)約8万点のコレクションから約500点の画像をとりあげてオーツカラーで紹介。近代以降、日本とその周縁をめぐる「異邦」のまなざしの往還と交錯を描出する。国際日本文化研究センター創立30周年記念企画。

▶A5判・256頁／本体2,800円(税別) ISBN978-4-7842-1896-7

文人世界の光芒と古都奈良

久留島浩・高木博志・高橋一樹編 大和の生き字引・水木要太郎

水木要太郎(1865-1938)が収集した多様な史資料のかたまり「水木コレクション」を主な分析素材とし、日本史学・考古学・国文学・美術史学・地理学・社会言語学等にわたる学術的な一書。多分野に及ぶ資料群の形成過程や収集意図のもつ歴史的意義の解明を目的とした国立歴史民俗博物館共同研究の成果。

▶A5判・508頁／本体7,800円(税別) ISBN978-4-7842-1481-5

徳川社会と日本の近代化

笠谷和比古編

19世紀アジア情勢の中で日本が独立を堅持しえたのは、欧米列強に互しうだけの文政史の力量を蓄えていたからだといえる。徳川社会はどのような力powerを、いかにして形成しえたのか、多分野の研究者の書き下ろし論文25本により総合的に究明する。

▶A5判・730頁／本体9,800円(税別) ISBN978-4-7842-1800-4

パリ万国博覧会とジャポニスムの誕生

寺本敬子著

万国博覧会の熱狂、それを彩るジャポニスム——。1867年の公式初参加から1878年のジャポニスム開花へ、いかなる「日本」イメージが形成されていったのか。日仏両国の史料を駆使し、開催国フランス、参加国日本、パリの観衆、三者の相互作用を通じてジャポニスムの誕生を解き明かす。1867年/パリ万博150周年記念 PROJECT 1867記念出版

▶A5判・370頁／本体6,500円(税別) ISBN978-4-7842-1888-2

近代日本の空間編成史

中川理編

わが国戦前の空間はどのように編成されてきたのか。日本の近代化過程という歴史全体のなかで議論することを掲げ、インフラストラクチャーと制度や政治、あるいは共同体などのかかわりを考究。建築史、都市計画史、土木史、造園史、歴史学など歴史的研究に携わる一線の研究者が、広くわが国の空間変容の実相を描き出す。

▶A5判・548頁／本体7,800円(税別) ISBN978-4-7842-1891-2

変容する聖地 伊勢

ジョン・ブリーン編

伊勢神宮は古代から変わることなく受け継がれてきた聖域というイメージで語られるが、神宮が移りかわる時代のなかで大きく変貌を遂げてきたことはあまり語られていない。本書は国内外の一線の研究者による古代から近・現代にわたる論考16編を収め、伊勢神宮の変容の歴史をひもとく。

▶A5判・340頁／本体2,800円(税別) ISBN978-4-7842-1836-3

歴史のなかの天皇陵

高木博志・山田邦和編

各時代に陵墓がどうあり、社会のなかでどのように変遷してきたのか、考古・古代・中世・近世・近代における陵墓の歴史をやさしく説く。京都アスニーで行われた公開講演に加え、研究者・ジャーナリストによるコラムや、執筆による座談会を収録。

▶A5判・340頁／本体2,500円(税別) ISBN978-4-7842-1514-0

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年2回無料でお送りしています。電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。 ※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。